

動労千葉2期労働学校へ参加しよう

第二期「労働学校」の開設にあたって

動労千葉組織教宣部長 片岡一博

全組合員の皆さん、そして、共に苦闘をわかち合う友誼単産の仲間の皆さん、動労千葉は、国鉄をめぐる決戦的情勢のなかにあつて「60・3」ダイ改阻止闘争をはじめ、「3・24三里塚」闘争を全国鉄労働者の先頭になつて闘いぬぎ、勝ち進んできました。

歴史的国鉄決戦に必ず勝とう！

一月十日発表された、国鉄当局による「経営改革のための基本方策」は、「分割・民営化」に向けて十八万八千人体制にするという超反動的な「方策」であり、十万〜十五万人の首切りを強行するという断じて許せないものであります。

「60・3」を突破口とするこの歴史を画する大首切り攻撃の開始に対し、動労「本部」革マルが当局の先兵として裏切りの限りを尽くし、動労千葉以外の全ての労働組合指導部が総屈服していくと否定すべき現状のなかで、唯一わが動労千葉のみが職場生産点からの怒りを体現し、実力で反撃していく突破口を切り拓いてきました。

敵しい現実だからこそ、一層原則的に闘うことが求められているし、また、「非妥協・不屈・実力」の原則的闘いが敵を追いつめ、味方を勇気づけながら、一歩一歩わが闘う隊列を鍛え強め拡大し、勝利への活路を切り拓いていっているという階級闘争本来のすばらしい姿が現われつつあります。

今だからこそ原則が大切！正義の力は無限

てるための憎むべき「政府広報」の大広告の文面の一端です。

何という許せない暴論、兇悪、ペテンであることか！しかし、この敵の焦りの姿の中に、まざまざと浮かび上っているのは逆に「たった十二戸」「たった三％の土地」であろうとも、正義はあくまで正義であり、不正義の権力・脱走者・裏切者の圧倒的な物理力・脅迫をもつてしても絶対に負けるわけにはいかないということです。十九年間あらゆる苦闘を闘いぬぎ、全てをかけて闘い続ける「十二戸」の正義が、今、一億国民の心を激しくゆさぶり、問いかけ、歴史を動かし、不正義を徹底的に追いつめ、日々勝利し、人民の未来を大きく切り拓いて力強く前進しつづけているというすばらしい姿そのものではありませんか。

そしてこのことこそ、今、全国鉄労働者、否、全ての労働者・人民に問われている最も核心的なことであり、連帯の真髄でなければなりません。われわれの「三里塚を闘う労働運動の全国的拡大」「三里塚―国鉄決戦で中曽根打倒」「動労革マル粉碎・一掃!! 動労大改革」の路線こそ、この勝利への道しるべです。

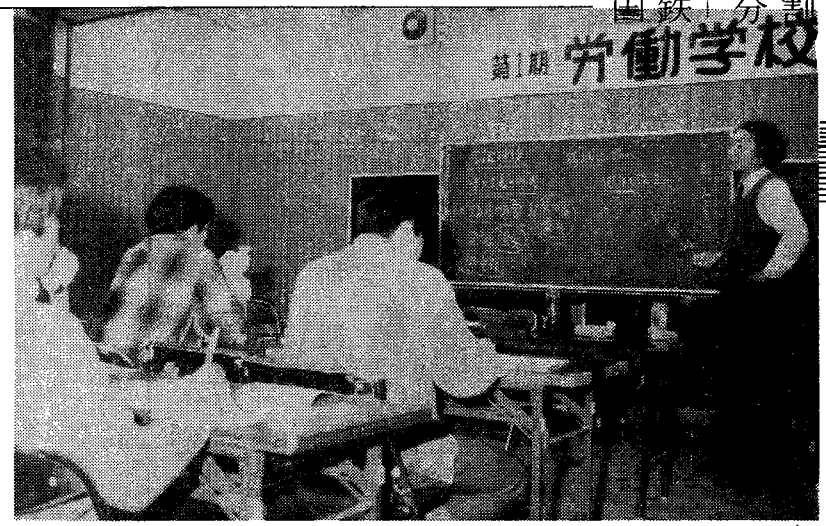
勝利への指針を学びとろう

動労千葉は、こうした立場から、昨年、五月「動労千葉労働学校」を開設し、総力をあげて取り組んできました。その結果、「第一期」は、月一回の講座で、12回にわたる講座を終了し、入学した生徒がそれぞれねばり強くがんばりぬぎ、大きな成果をつくりだしました。しかし、はじめてのことでもあり、テーマ、講演内容、参加方法等について、今後改善すべきいくつかの点も見えてきました。

「労働学校・第二期」の開設にあたって「第一期」で生じたさまざまな問題を教訓とし、より充実した学習の場としていきたいと決意しています。

組合員の皆さん、友誼単産の仲間の皆さん、第二期を成功させ、労働者としての感性に磨きをかけ、闘いの力量を高めるために総力をあげて「労働学校」に参加協力されますように強く要請いたします。

※「参加要綱」は、裏面を参照して下さい。



授業風景(第1期) 闘いの中に学ぶ

「成田空港は、一期開港してすでもう七年」「一日二百便、年間一千万人が利用する日本の玄関」「未買収地はあと三％」「三〇〇戸以上あつた農家でも今も反対しているのはたった十二戸だけ」「十九年間たつてもまだ反対している」「反対のための反対で過激派と同じ」「これらは全て、先日、運輸省がおそらく何千万円もの広告料を払って全紙一斉にデカデカと掲載した「二期早期強行！反対同盟撲滅」をあおりた